

科目ナンバリング		U-LAS23 20002 SO48							
授業科目名 <英訳>	中国語ⅡB [会話・ネイティブ実習] C265 Intermediate Chinese B [Conversation with native instructor]				担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究所 教授 松江 崇			
群	外国語科目群			分野(分類)				使用言語	日本語及び中国語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	月4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>本授業は、中国語の重要な文法・語彙項目の習得、並びにそれらを実際に運用する能力の獲得を目的とするものであり、さらに中国における言語・文化の地域差についての文化についての理解を深めることをも意図したものである。具体的には、現代中国語で書かれた中国の言語・文化の地域差に関わる対話文・解説文を読解することにより、初級中国語で学んだ語彙・文法・発音についての基礎知識を確認しつつ、中国語による表現のために不可欠な文法事項を習得する。さらに、授業においてそれらを実際に運用する訓練を行うことにより、中国語の運用能力を高めることを目的とする。</p>									
【到達目標】									
<p>中国語で自分の主張・見解を表現するために必要不可欠な文法事項を習得し、受講者自身の主張・見解を中国語で表現できるようになる。また国における言語・文化の地域差に関する基礎的な事項を理解し、中国の言語・文化に対する認識を深める。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>この授業はフィードバック(方法は別途連絡)を含む全15回で行う。 中国語の歴史に関わる対話文・解説文を内容とする教員が作成したテキスト(原則としてピンイン付き)に基づき、受講者が毎回決められた範囲について予習を行い、授業中に日本語訳を発表するかたちで授業を進める(担当箇所の音読も求められる)。教員は、テキストにみえる文法事項(常用語彙項目も含む)についての詳しい解説を行うと同時に、受講者はそれを実際に運用する訓練を行う。さらに学習した文法事項を用いた作文の提出を求めることもある。この他、授業ではテキストの内容に関する補足説明も行っていく。具体的な授業計画は以下のようなものである。</p>									
<p>第1回：中国語の文法体系概説 第2回：中国語の方言差異はどのようなものか(1) 第3回：中国語の方言差異はどのようなものか(2) 第4回：中国語方言概説(解説文) 第5回：「北風と太陽から」みる方言差(1) 第6回：「北風と太陽から」みる方言差(2) 第7回：飲食文化における地域差はどのようなものか(1) 第8回：飲食文化における地域差はどのようなものか(2) 第9回：茶の歴史(解説文)(1) 第10回：茶の歴史(解説文)(2) 第11回：古代中国における思想・文化の地域差(1) 第12回：古代中国における思想・文化の地域差(2) 第13回：中国における少数民族について(1)) 第14回：中国における少数民族について(2) 《期末試験》 第15回：フィードバック</p>									
						中国語ⅡB [会話・ネイティブ実習] C265(2)へ続く			

中国語II B [会話・ネイティブ実習] C265(2)

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

原則として期末試験70点、平常点30点で評価する。詳細については授業の最初の時間に説明する。平常点については、出席状況（発表状況）および予習状況の評価・提出課題の評価に基づく。期末試験は、主としてテキストの日本語訳の正確性および文法事項（語彙項目を含む）の理解、中国の言語・文化の地域差についての理解を問うものとする。

[教科書]

プリント（教員の作成したテキスト）を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

必ず毎回決められた範囲を予習（日本語訳作成・発音練習）して出席すること。指定された課題を期日内に提出すること。

[その他（オフィスアワー等）]

毎回の授業に必ず中日辞典を携帯すること。
教員への連絡は、原則としてメールにしてください。